

MOT アニュアル 2011

Nearest Faraway | 世界の深さのはかり方

MOT Annual 2011 Nearest Faraway

2011年2月26日(土) - 5月8日(日)
February 26 Saturday - May 8 Sunday 2011

池内 晶子 | Akiko IKEUCHI

椛田ちひろ | Chihiro KABATA

木藤 純子 | Junko KIDO

関根 直子 | Naoko SEKINE

富井 大裕 | Motohiro TOMII

八木 良太 | Lyota YAGI



八木 良太 《Sound sphere》2010 ミクストメディア

「MOTアニュアル」は、東京都現代美術館が、日本/東京の美術の新しい動きをグループ展形式で紹介するものとして1999年より毎年行っているシリーズ企画です。11回目となる本年は、「Nearest Faraway | 世界の深さのはかり方」を副題に、さまざまなビジュアルイメージが溢れアートの姿も急速に変化する現代にあって、あらためて、私たちのよって立つところを問うような作品を生み出している6人の作家を紹介します。

本展で取り上げる6人の作家たちは、身の回りにある、特別なものではなく誰でも簡単に手に入る素材と、シンプルな技法を用いる作家たちです。けれども、そのシンプルさはそれぞれ独自の明確な方法論に支えられており、その作品からは、「見ること」や「聞くこと」また「作ること」、そして「時間」や「空間」といった、いわばさまざまな事象の成り立ち自体を問うような姿勢を感じることができます。繊細さや時にユーモアとともに、一種スティックな手触りと奥行きをもつ彼ら/彼女らの作品は、私たちが支えるこの世界の深さと豊かさを様々な仕方で垣間見させてくれるでしょう。

本展は、もっとも近いところに端を発しつつも、彼方まで射程を持つような作家たち固有の想像力、語彙/方法、行為自体を、いわば“術”としてのアートと捉え、その実践を見つめる試みです。私的な閉じた世界観、未来を先取りするような貧弱な想像力と効率への志向がもつぱらとなり「待つ」ことができなくなったといわれる現代ですが、そのような時代にこそ、自らの手であらためてより根源的な世界の成り立ちに触れようとする作家たちのその“術”が、重要な気づきと励ましを私たちにもたらしてくれるのではないのでしょうか？ そのような願いとともに本展が私たちの時代の「アート」の一つの可能性をさぐる契機となれば幸いです。

出品作家(敬称略・五十音順):

池内晶子 | 椛田ちひろ | 木藤純子 | 関根直子 | 富井大裕 | 八木良太

展覧会の見どころ:

6人の作家を6つの異なる空間で |

東京都現代美術館の3階は、企画展示室の中でも天井の高さが特徴的な空間です。今回のMOTアニュアルでは、作家ごと、作品に合わせた展示室を構想することで、それぞれの部屋において、まったく異なる空間感覚が呼び覚まされるでしょう。一見ささやかな素材と大きな空間とがどのように関わっていくのでしょうか？

6人の作家が立ち上げる、作品と空間、そして私たち見る者との間の豊かな関係性をぜひ味わってください。

目をこらして/耳をすまして シンプルながらも多様な作品 |

かすかな動きや、音、風、光、闇、反射、気配、おもしろい場所... 今回のMOTアニュアルの作品群は、それぞれがシンプルながらも多様な現れをしているのが特徴です。一度は気がつかずに通り過ぎてしまうかもしれませんが、会場のさまざまなところに目をむけて/耳をすまして/心を留めて作品を体験してみてください。6人6様の繊細でありながら硬質な緊張感、あるいは軽妙な企みやユーモアが、わたしたちの強固な思い込みに風穴を開けてくれるかもしれません。

注目の作家たち + トーク・イベント |

近年発表の機会が相次いでいる富井大裕と関根直子は、新作も含め、これまでの制作の厚みを見せる意欲的な展示構成を行います。グループ展「ウィンター・ガーデン」への参加で注目を集めた八木良太は、半年間にわたるNYでのレジデンス後初めてとなる本格的なインスタレーションを発表します。また、最近注目を集める木藤純子と、椛田ちひろ、そして6人のなかでもっとも長いキャリアを持つ池内晶子は、いずれも新作を構想、東京の美術館においてはじめての本格的な紹介になります。また、会期中は6人の作家を中心にトークやイベントを開催します。

タイトル: MOTアニュアル2011 Nearest Faraway | 世界の深さのはかり方
会期: 2011年2月26日(土) - 5月8日(日)
休館日: 月曜日 ※ただし3/21は開館、翌日休館
開館時間: 10:00 - 18:00(入場は閉館の30分前まで)
会場: 東京都現代美術館 企画展示室3階 東京都江東区三好4-1-1
主催: 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館
協力: 江口孔版株式会社 | 株式会社 カシマ | コエドブルワリー | 田中裕之建築設計事務所 | 日本特殊織物株式会社 | 株式会社益基樹脂 | 三菱鉛筆株式会社

観覧料: 一般 1,000円(800円) | 大学・専門学校生・65歳以上 800円(640円) | 中高生 500円(400円) | 小学生以下 無料

※()内は20名様以上の団体料金

※同時開催の「田窪恭治」展との共通券は一般1,600円 | 大学生・65歳以上1,300円 | 中高生800円

※本展のチケットで「MOTコレクション」もご覧いただけます。

お問合せ: 03-5245-4111 (代表) | 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

HP: www.mot-art-museum.jp

担当学芸員: 東京都現代美術館 事業企画課企画係 鎮西芳美

カタログ: 2011年3月刊行予定 | デザイン 森大志郎

同時開催: 田窪恭治展 | MOTコレクション後期

[交通案内]

- 東京メトロ半蔵門線・清澄白河駅B2番出口より徒歩9分
- 都営地下鉄大江戸線・清澄白河駅A3番出口より徒歩13分
- 東京メトロ東西線・木場駅3番出口より徒歩15分、または都営バス(業10)「業平橋駅前」行き / (東20)「錦糸町駅前」行きで「東京都現代美術館前」下車
- 都営地下鉄新宿線・菊川駅A4番出口より徒歩15分、または都営バス(業10)「新橋」行き / (東20)「東京駅丸の内北口」行きで「東京都現代美術館前」下車
- JR東京駅丸の内北口2番乗り場より、都営バス(東20)「錦糸町駅前」行きで「東京都現代美術館前」下車
- 首都高速「木場」又は「枝川」出口利用

[関連プログラム]

■ イベント

- 富井大裕 × 近藤恵介 彫刻と絵画をめぐるワークショップ
3月12日(土) 14:00~
会場: 東京都現代美術館 講堂 定員30名(事前申込制) 参加無料
- 八木良太 × 蓮沼執太 サウンドパフォーマンス
4月2日(土) 15:00~
会場: 東京都現代美術館 定員100名(先着) 参加無料

※その他出品作家によるアーティスト・トークや対談が予定されています。
詳細は決まり次第、東京都現代美術館ホームページにてお知らせいたします。
また上記予定は変更となる場合があります。

広報お問い合わせ先: 東京都現代美術館 事業企画課企画係 広報班
吉川 m-yoshikawa@mot-art.jp / 小原 k-ohara@mot-art.jp
東京都江東区三好4-1-1 Tel.03-5245-1134(直通) / Fax.03-5245-1141

以下の画像は広報用素材としてもご提供しております。

掲載ご希望の方は別紙FAXシートにてご希望の図版番号をお知らせください。

池内晶子 | Akiko IKEUCHI (b.1967-)

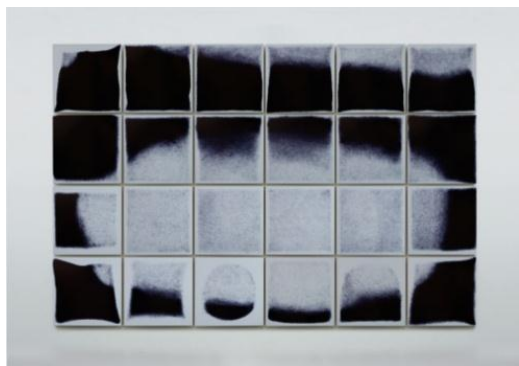


① 池内 晶子 《Knotted Thread-Red》2009 絹糸
撮影:橋本舞【参考図版 gallery21yo.jでの展示】

6人のなかではもっとも長いキャリアを持つ池内晶子は、絹糸を結ぶというシンプルな手法を繰り返すことで、重力という見えない法則に従いながら一貫して「空間」の成り立ちを考究している作家です。絶妙な均衡で張られた糸の集合体は、人の気配や空気の振動により微かに動き続けます。人の在／不在に応じて姿を変える作品は、どのようにして「見る」ことができるのでしょうか？ 繊細さと強靭さをあわせもつ彼女の作品は私たちを包み込みながらも常に部分であり続け、人と空間の関わりを問いかけます。

作品の繊細な性質ゆえ美術館で長期にわたって展示するのはチャレンジであり、これまでも国内・海外ともに高い評価を受けながら、主にギャラリーを中心に作品を発表してきました。東京の美術館での展示は今回が初めてになります。充実したスペースで作品を実現していただける非常に貴重な機会です。

椋田ちひろ | Chihiro KABATA (b.1978-)

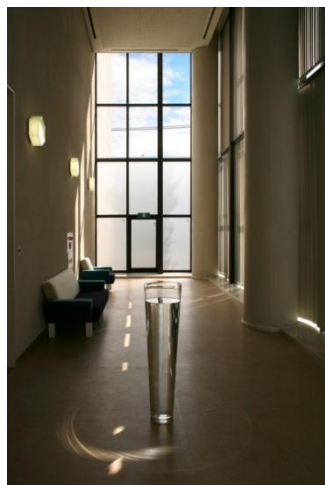


② 椋田 ちひろ 《シュワルツシルトへの回答 24のメトリック》
2009 油性ボールペン/インクジェット紙 50x50cm(24枚組)

椋田ちひろは、絵画の可能性を追求する若手の中でも今もっとも注目されているひとりです。これまで、筆を用いず自身の指と手で描いていく油彩画と、画面に接近し絶え間ない運動の連続により線を重ねていくボールペン画の双方を手がけてきました。いずれも繊細さと野性味をかねそなえ、また同時に、作品を見る者やその場の空間を意識した硬質な構造をもっているのが特徴です。特に油性ボールペンの線を幾層にも重ねることで生み出される光沢のある画面は、見る者を反射する独特の質感と筆触による奥行き感をあわせもち、絵に対峙することのつきない魅力をあらためて伝えてくれるでしょう。

美術館での初めての展示となる今回は、油彩ボールペンによる新作群とともに、彼女の作品の構造を明らかにするような立体作品をあわせて紹介し、その作品世界を多角的にご覧いただけます。

木藤純子 | Junko KIDO (b.1976-)



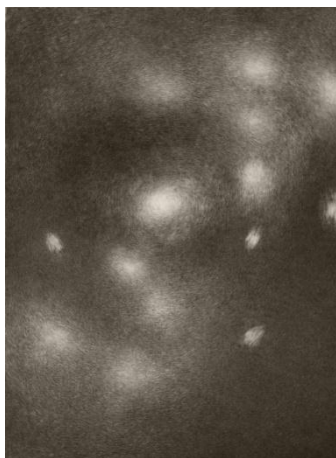
③ 木藤 純子 《空見の間》2010
カッティングシート、ガラス、水、紙、ほか
写真提供: 富山県立近代美術館【参考図版】

展示空間と何度も対話を繰り返して構想されるインスタレーションが近年高く評価され、2010年は各所での展示が相次いだ木藤純子。自然の現象に想を得て、光と闇をモチーフとした繊細なインスタレーションを通して、とりわけ「見える／見えない」ということをめぐる私たちの知覚にアプローチする作家です。見る者がどの時点で作品に接するかによってその現れも異なり、また、長い時間をかけてその場にいることでより濃密な体験ができるというような、非常に個性的な作品を手がけています。

京都をベースに活動をしているため、東京の美術館での本格的な紹介は初めてとなります。今回は、美術館の大きなスペースと、どのような対話を見せてくれるのでしょうか？ どうぞ、時間をかけて、また、展示室を何度かまわって見てみてください。

以下の画像は広報用素材としてもご提供しております。

掲載ご希望の方は別紙FAXシートにてご希望の図版番号をお知らせください。



④ 関根 直子 《点の配置》 2007
鉛筆/水彩紙(シリウス) 92x68.5cm

関根直子 | Naoko SEKINE (b.1977-)

国内、海外での発表を重ね、2008年VOCA賞を受賞、2010年夏のパリ日本文化会館での二人展においても精度の高い作品が好評を得た関根直子。鉛筆/シャープペンシルと練り消しゴム、という限られた素材を用いて、描き、消す、という行為の反復と差異により、ざわめくような独特の空気感とリズムをまとった画面を生み出します。「一本の線」や「描くという行為」などの要素を丁寧に確認しながら作品を描き続けることで、関根は、「書くこと/描くこと」をめぐって文字と絵が分離していなかった時代に思いをはせているようです。そのようにして立ち上がる空間は、私たちのあらゆる感覚を静かに波立たせていくでしょう。

今回は、空間の中をさまざまに巡りながら画面と接してみたいとの思いを反映して、部屋を構成します。作品と空間を通して、その静かで濃密な気配との距離感を楽しんでください。



⑤ 富井 大裕 《ball sheet ball》 2006
アルミ板、スーパーボール 87x60x30cm
撮影：柳場大

富井大裕 | Motohiro TOMII (b.1973-)

1990年代末より継続的に発表を行い、「作ること」をめぐる探求が近年注目を集めている富井大裕。身の回りにあるものを素材としながら、それらが「作品」として成り立つ所以をさぐり、確認と反問を重ねている作家です。彼の端的な「手仕事」は、素材のもつ機能や物理を導き手として、「作る」行為の成り立ちを問いかけます。それはまるで、よく見知った物が全く別の使用法を手に入れているかのよう。私たちは、「見ること」と「作ること」をさまざまに問いかけるしなやかな強さを持った作品に、虚を突かれるかもしれません？！

2007年以來の美術館での展示として、いわゆる代表的な作品から新作まで、富井の制作のコアの部分と近年の広がりをご紹介します。館内のどこかにも「作品」が在るかもしれません…。今回は、新作をふくめ、富井大裕の作品をまとめてご覧頂ける機会となります。



⑥ 八木 良太 《Sound sphere》 2010 ミクストメディア

八木良太 | Lyota YAGI (b.1980-)

グループ展「ウィンター・ガーデン」への参加により(《VINYLL》2005年)広く注目を集めた八木良太は、「聞く」という事態の成立する際をめぐる制作、「時間」の不可思議を探っています。さりげない、身近にあるような装置が思いもかけず広大な地平を照らし出す彼の作品は、なぞなぞや禅の公案にも似て、普遍的な領域への志向とともに私たちの感覚や与件を軽々と反転させるような一種の爽やかさを持っています。「？」が「!」、そして「!!」へと変わる瞬間を味わって下さい。

本展では、2010年11月まで半年間にわたるNYでのレジデンス後初めてとなる、本格的なインスタレーションを発表します。音と時間、そして私たちの簡単な参加によって作品が成立します。また、会期中にサウンドパフォーマンスを開催する予定です。

池内晶子 1967年東京都生まれ、東京在住

- 1991 東京芸術大学美術学部絵画科油画専攻卒業 0氏記念賞受賞(大橋賞)
1993 東京芸術大学大学院美術研究科壁画専攻修了
1998-00 文化庁派遣芸術家在外研修員および日米芸術家交換計画日本側派遣芸術家として、ニューヨークに滞在
ニューヨーク市立大学シティカレッジ人文科学科美術大学院、客員研究員
2003-04 東京芸術大学美術学部絵画科油画非常勤講師

主な個展／グループ展

- 1991 INAXギャラリーにて初個展、以降、ギャラリー21+葉などで個展
1994 グループ展「人間潮流94、釜山ー長野、韓日現代美術国際交流展」(長野／釜山)
1996 グループ展「第6回富山国際現代美術展(イギリス、日本)」富山県立近代美術館
2007 グループ展「現代美術こうふ展」藤村記念館(甲府市)

椛田ちひろ 1978年生まれ、東京在住

- 2004 武蔵野美術大学大学院修了
2009 Beijing Studio Centerにてアーティスト・イン・レジデンス

主な個展／グループ展

- 2006 Art Trace Gallery(東京)で初個展、以降、遊工房アトスペース(東京)等にて個展
2009 グループ展「アーティクルアワード2009」デザインフェスタギャラリー(東京)/クムサンギャラリー(ソウル)/東京画廊+BTAP(北京)
2009 グループ展「断続的対話」Art Trace Gallery(東京)
グループ展「international exhibition」Zibo museum(中国)

木藤純子 1976年富山県生まれ、京都在住

- 1999 成安造形大学造形学部造形美術科洋画コース卒業
2000 成安造形大学造形学部造形美術科洋画コース研究生修了

主な個展／グループ展

- 2000 「keep off the grass」ギャラリー射手座(京都)にて初個展、以降、ギャラリーキャプション(岐阜)等にて個展
2001 グループ展「神戸アートアニュアル2001 ねむい、まぶた」神戸アートビレッジセンター
2002 グループ展「変身願望。ーいま、表現とは？」福井市美術館
2009 個展「Calling 木藤純子」みのかも文化の森 美濃加茂市民ミュージアム

関根直子 1977年 東京生まれ、東京在住

- 1999 武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業
2001 武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻油絵コース修了

主な個展／グループ展

- 2002 フタバ画廊(東京)で初個展、以降、art space kimura ASK?(東京)、ギャラリーエアンドウ(東京)等にて個展
1998 グループ展「terminal・現代美術交流展」武蔵野美術大学内(東京)/Kunst Akademie Dusseldorf (Germany)
2006 グループ展「Chaosmos'05-辿りつけない光景」佐倉市立美術館
2007 グループ展「線の迷宮<ラビリンス> II -鉛筆と黒鉛の旋律」目黒区美術館
2008 グループ展「VOCA展2008-現代美術の展望-新しい平面の作家たち」上野の森美術館 (VOCA賞受賞)

富井大裕 1973年 新潟県生まれ、東京在住

- 1997 武蔵野美術大学造形学部彫刻学科卒業
1999 武蔵野美術大学大学院造形研究科彫刻コース修了(修了制作優秀賞受賞)

主な個展／グループ展

- 1998 「周辺のカタチ」ギャラリー現(東京)にて初個展、以降、モリスギャラリー、switch point等にて個展
2000 個展「つくるために必要なこと」金沢美術工芸大学アートギャラリー(金沢)
2009 グループ展「第1回所沢ビエンナーレ美術展ー引込線ー」西武鉄道旧所沢車両工場(埼玉)
グループ展「変成態-リアルな現代の物質性」Vol.2 富井大裕×中西信洋「揺れ動く物性」ギャラリーαM(東京)
2007 グループ展「ニュー・ヴィジョン・サイタマ・7つの眼×7つの作法」埼玉県立近代美術館

八木良太 1980年愛媛県生まれ、京都府在住

- 2003 京都造形芸術大学 空間演出デザイン学科 卒業
2010 ACC(Asian Cultural Council)の助成によりニューヨークに滞在

主な個展／グループ展

- 2006 無人島プロダクションで初個展
2007 個展「クリテリウム70 八木良太」水戸芸術館現代美術ギャラリー
2008 個展「エマージェンシーズ8 八木良太 "回転"」NTTインターコミュニケーションセンター(東京)
2009 グループ展「Re:Membering - Next of Japan」DOOSAN GALLERY / GALLERY LOOP、韓国・ソウル
グループ展「ウインター・ガーデン」原美術館(東京)
グループ展「サイレント」広島市現代美術館
2010 2人展「音が描く風景／風景が描く音:鈴木昭男・八木良太展」横浜市民ギャラリーあざみ野
グループ展「THE RECORD」Nasher Museum、ノースカロライナ・アメリカ

東京都現代美術館 事業企画課企画係 広報班宛

FAX. 03-5245-1141

本展覧会広報用素材として、作品画像6点をご用意しております。

ご希望の際は下記申込用紙に必要事項をご記入の上、ファックス又はEメールにてお申込みください。

なお、写真の使用に際し、以下の点をご注意ください。

① キャプションは、作家名、作品名、制作年、撮影者等を必ず表記ください。

② 作品のトリミング、文字載せはお控えください。

本展記事を紹介頂く場合には、恐れ入りますが情報確認の為の校正、掲載誌(紙)、DVD、CD等をお送りください。

また読者様・視聴者様へのプレゼント用招待券もご手配可能ですので、ご希望の場合はお申し付けください。

媒体名: 『 _____ 』

○印をおつけください

種別: TV ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー
ネット媒体 携帯媒体 その他

発売・放送予定日: _____

御社名: _____

ご担当者名: _____

Eメールアドレス: _____

@

(〒 _____)

ご住所: _____

お電話番号: _____

FAX: _____

図版番号: ご希望の図版番号に✓をおつけください。

- ① 池内晶子 《Knotted Thread-Red》2009 絹糸 撮影:橋本舞 [参考図版]
- ② 椛田ちひろ 《シュワルツシルトへの回答 24のメトリック》2009 油性ボールペン/インクジェット紙 [参考図版]
- ③ 木藤純子 《空見の間》2010 カッティングシート、ガラス、水、紙、ほか
写真提供:富山県立近代美術館 [参考図版]
- ④ 関根直子 《点の配置》2007 鉛筆/水彩紙(シリウス)
- ⑤ 富井大裕 《ball sheet ball》2006 アルミ板、スーパーボール 撮影:柳場大
- ⑥ 八木良太 《Sound sphere》2010 ミクストメディア

プレゼント用招待券をご希望の場合は✓をおつけください。 10名様 / 20名様

広報お問い合わせ先: 東京都現代美術館 事業企画課企画係 広報班

吉川 m-yoshikawa@mot-art.jp / 小原 k-ohara@mot-art.jp

東京都江東区三好4-1-1 TEL.03-5245-1134(直通) / FAX.03-5245-1141